

月		4		5			6			7			8			9				
旬		中		下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中		
普通期	生育期間				は種	育 苗		田植	活着期	有効分けつ期	無効分けつ期	幼穂形成期		出穂期	穂揃期	登熟期間		成熟期		
	主な作業							浅 水		間断灌水		中干し	間断灌水		浅 水		間断灌水		落 水	
		・土壌改良資材施用 ・温湯消毒 ・レンゲすき込み(基肥)						・箱施薬①		・田 植 ($\frac{6}{5}$ ~ $\frac{6}{10}$) ・除草剤処理② ・落水(ガス抜き) (半日~1日程度干す 除草剤散布後7日頃)			・溝切り ・最高分けつ期		・穂肥 (出穂前28~25日)		・穂いもち病 防除時期③ ・ウンカ・カメムシ防除④ (状況に応じて2回散布)		・収 穫 収穫適期 (黄褐色粳70~80%) 収穫早限 黄褐色粳比率70% 粳水分28%	
水管理: 除草剤散布後7日頃落水(ガス抜き)を行い、根の機能促進と分けつ促進を図ります。																				

主な雑草
及び害虫

コナギ

ホタルイ

アゼナ

イネカメムシ

イネカメムシ対策
新害虫イネカメムシの特徴は出穂期後の幼い粳の基部を吸汁し不稔粳発生の要因となります。その為、対策としては出穂前に1回、出穂後7~10日に1回の2回防除が必要となります。

穂肥の診断

穂肥時の稲姿と幼穂長

主稈

幼穂長2~3mm

主稈

止葉

三葉

次葉

・穂肥は葉色をみて量を加減する。
・穂肥は出穂前(幼穂長2~3mm)頃使用する。

①箱施薬 次のいずれか1つを選択

名 称	使用量	使用時期	対象病虫害
防人箱粒剤	1箱あたり50g	播種時(覆土前)~ 移植当日	いもち病、ウンカ類、もみ枯細菌病、イネミズゾウムシ、イネドロオイムシ、ニカメイチュウ、コブノメイガ
フルスロトル箱粒剤 ※紋枯病に効果あり			いもち病、ウンカ類、もみ枯細菌病、イネミズゾウムシ、イネドロオイムシ、ニカメイチュウ、コブノメイガ、紋枯病
ブーンゼクテラ箱粒剤			いもち病、ウンカ類、もみ枯細菌病、イネミズゾウムシ、イネドロオイムシ、ニカメイチュウ、コブノメイガ

※育苗センターの苗(夢つくし、元気つくし、ヒノヒカリ)は箱施剤(防人箱粒剤)入りです。
田植前に箱施薬を散布する必要はありません。

②除草剤使用基準 次のいずれか1つを散布

種 類	名 称	10a当たり使用量	使用時期
粒 剤 (※田植同時処理可)	キマリテ1キロ粒剤	1kg	田植時~10日(ノビエ3.0葉期まで)
	プライオリティ1キロ粒剤		田植時~12日(ノビエ3.5葉期まで)
	ビクトリーZ1キロ粒剤		田植時~10日(ノビエ3.0葉期まで)
フロアブル (※田植同時処理可)	キマリテフロアブル	500ml	田植時~10日(ノビエ3.0葉期まで)
	プライオリティフロアブル		田植時~12日(ノビエ3.5葉期まで)
フロアブル (※田植同時処理不可)	ビクトリーZフロアブル		田植後5日~10日(ノビエ3.0葉期まで)
ジャンボ	キマリテジャンボ	10パック	田植直後~10日(ノビエ3.0葉期まで)
	プライオリティジャンボ		田植直後~12日(ノビエ3.5葉期まで)
	ビクトリーZジャンボ		田植後5日~10日(ノビエ3.0葉期まで)

※除草剤処理後1週間は田面が露出しないようにすると効果が安定する。

〔スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)対策〕

(使用しても化学合成農薬成分にカウントされません。)

名 称	10a当たり使用量	使用方法	備 考
スクミンベイト3	2~4kg	湛水散布	浅水にして、水口、深いところ等タニシの集まる所にスポット処理も有効

その他対策：生貝の捕殺、卵塊の圧殺、取水口への網設置、浅水管理、厳冬期の耕起等

○施肥基準

時期	すき込み時のレンゲの生育状況		基 肥	穂 肥
	4月下旬~5月上旬(開花最盛期、田植1ヵ月前) すき込み		福岡嘉穂ユーキくん2号(10a当たり)	油粕ベレット10a当たり50kg
施肥	レンゲがほ場の100%~70%以上生えている	レンゲの生育は旺盛で均一に生えている	施用しない	時期：出穂28~25日前(幼穂長0.2~0.5mm)施用
		レンゲの生育は小さく均一に生えている	10~15kg(側条施肥:10kg)	
	70%未満~20%以上生えている	レンゲの生育は小さくまだらに生えている	15~20kg(側条施肥:10~15kg)	
	20%未満しか生えていない	レンゲは、ほ場の2割ぐらい生えている、またはほとんど生えていない	30kg(側条施肥:25kg)	

○レンゲの栽培

- は 種10月下旬~11月上旬
(病虫害対策のため早播きはしない)
3~4kg/10a
- は種量(湿田、遅播きは20~30%増量)
(湿田はは種後排水溝を掘る)

- ・酸性土壌に対しては弱いので、pHは6.0以上が望ましい。
- ・種子が小さいためは種床の凹凸が大きいと発芽や生育にムラがでやすい。地表面を均平にする。
- ・種子に傷を付けると吸水が早くなり発芽や生育がよくなる。
 - ①容器に種子と同量の砂を混ぜて砂付きする。
 - ②コンクリートの上に種子を置いて軽く板で押さえこする。
 - ③還流式小型精米機で、10~15分間磨る。
- ・は種時には場が乾燥しすぎると、発芽が悪くなるので、は種は耕起後では、雨が降る前日または雨が降った翌日に行う。

肥料・農薬の注文は予約購入で経済効果を上げましょう。

農薬は、散布前に必ず農薬ラベルを確認し、散布時には、天候に注意し、他の作物にかからないように散布しましょう。

この栽培暦はJA米の生産基準を兼ねています。要件を満たさない米穀は区分してJAに出荷しましょう。

○すき込み

- ・すき込みは、4月下旬~5月上旬のレンゲの開花最盛期頃に行う(田植1ヵ月前が目安)。
- ・すき込んで1週間以上は水を入れない。
- ・5月上旬頃の花が満開直前の時、レンゲの窒素成分が一番多くなる。
- ・すき込む時期が遅くなるほど窒素成分は少なくなる。
- ・すき込む時期が田植に近くなるほどレンゲの分解で酸素不足となり苗の活着が悪くなる。

特裁米の条件

- ※こよみに記載している肥料、農薬以外は使用できません。
- ※こよみ以外の肥料、農薬を使用した場合は必ず報告して下さい。(県認証より除外します。)

肥料・農薬・生産資材の購入はJAから!!
生産履歴は必ず記載しましょう。